



河床低下のため陥没した自在堰（昭和2年6月撮影）

大正11年に通水した大河津分水路は、河口まで約50kmの信濃川を約10kmにショートカットしたため、流水の位置エネルギーの分担が大きく、通水とともに完成した自在堰は、5年後の昭和2年に、堰下流の急激な河床低下により、基礎下部に空洞が生じ、堰が陥没した結果、分派機能を失い、取水障害など、下流域に多大な被害を与えた。

国土交通省 北陸地方整備局 信濃川河川事務所
住所 〒940-0098 新潟県長岡市信濃1丁目5番30号
電話 0258-32-3020
ホームページアドレス
<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/>

老朽化の著しい大河津可動堰

— 早急な改築が必要 —



70年以上経過した大河津可動堰（平成14年10月撮影）

はじめに

信濃川の大河津分水路分派点には、信濃川側に大河津洗堰、分水路側に大河津可動堰が設置されています。

大河津洗堰（大正11年設置）は老朽化が進んだため、平成13年度に新洗堰に改築を完了しました。

大河津可動堰は、昭和6年の完成以来、70年以上を経過し、その間、越後平野の水利利用・洪水防御に大きな役割を果たしてきましたが、施設の老朽化が著しく、堰柱基礎部の空洞化・堰上下流の河床低下が進行し、堰の安定性が低下したため、平成15年度より特定構造物改築事業として可動堰改築に着手します。



特定構造物改築事業として、平成15年度より、可動堰改築事業に着手します。

特定構造物改築事業とは・・・

既に耐用年数に達している堰、水門等の大規模な老朽構造物及び河道計画に照して著しく河積を阻害している橋梁、堰等の大規模構造物について全面的に大規模な改築が必要となった場合に、機動的、集中的な投資を行い必要な改築を行うことにより、その機能の回復を図る事を目的としている。